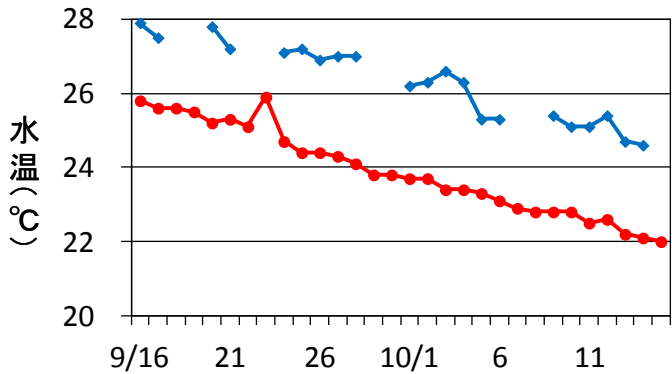




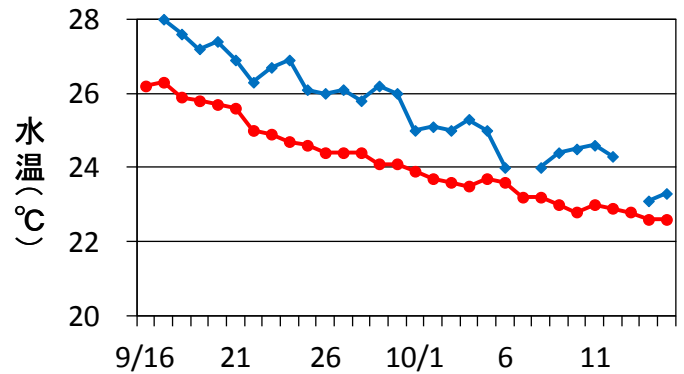
## 〔海の状況 (9/16~10/15) 〕

- ・神子表面水温……期間を通して、概ね過去30年平均より2℃以上高めで推移していた (図1)。
- ・米ノ表面水温……期間を通して、概ねはなはだ高め (過去15年平均より1.5~2.0℃程度高め) で推移していた。(図2)



◆ 神子(2012) ● 神子平年(過去30年平均)

図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(2012) ● 米ノ平年(過去15年平均)

図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・100m深水温……2012年10月上旬の若狭湾沿岸域は13~15℃台の水域が広がっていた (図3)。

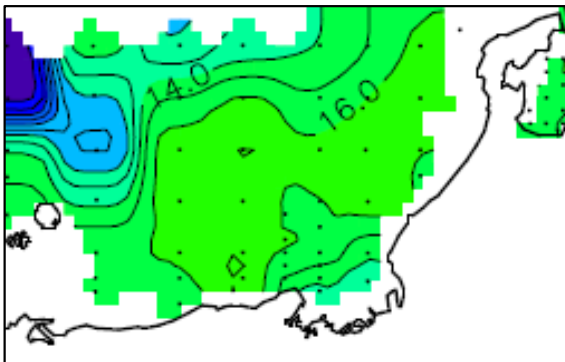


図3. 2012年10月上旬の100m深水温

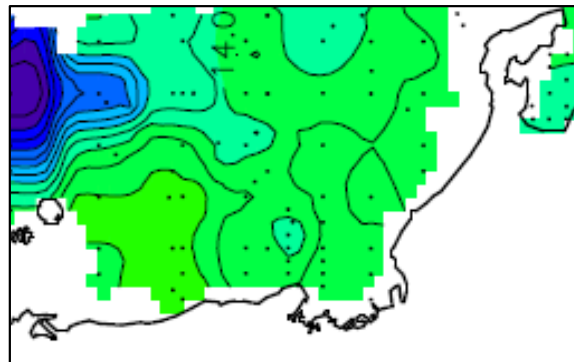
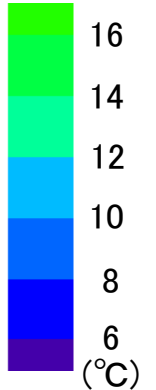


図4. 2011年10月上旬の100m深水温



資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

## 平成24年度第3回日本海海況予報

(独)水産総合研究センターより、平成24年10~12月までの日本海海況予報が発表されましたので、その概要についてご紹介します。

- 能登半島北西の大型の暖水域は、ほぼ停滞して勢力を維持する。
- 山陰・若狭沖、入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、やや高め~かなり高めで経過する。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部および北部ともやや高めで経過する。

なお、詳しい内容は(独)水産総合研究センターのホームページ (<http://www.fra.affrc.go.jp/>) から閲覧することができます。

(宮田克士)

〔県内の漁模様：9月〕

2012年9月の県内の総漁獲量は968tで、2011年同月を29t上回った。

定置網

漁獲量は539tで、前年同月を5t下回った。そのうちカタクチイワシ、アジ類、サバ類、ブリ類、ケンサキイカ等が下回った。一方、シイラ、サワラ、アオリイカ等は前年同月を上回った。

底びき網

漁獲量は344tで、前年同月を24t上回った。そのうちアカガレイ等は前年同月を上回った。一方、アカエビ等が前年同月を下回った。

釣り・その他

漁獲量は86tで、前年同月を10t上回った。そのうちソデイカ等は前年同月を上回った。一方、ケンサキイカ等が前年同月を下回った。

(単位：kg)

定 置 網			
魚 種	2012年	2011年	02-11平均
カタクチイワシ	260	19,136	13,198
アジ類	24,042	72,528	67,593
(アジ)	5,945	36,177	28,392
(小アジ)	17,116	34,396	35,857
サバ類	1,361	16,909	16,425
カジキ類	8,027	9,366	17,326
ブリ類	22,714	166,458	141,957
(ブリ)	0	211	222
(ワラサ)	166	10,746	13,800
(ハマチ)	2,989	32,573	9,949
(ツバス)	11,158	97,885	100,372
(アオコ)	8,401	25,043	17,615
ヒラマサ	6,202	8,124	10,061
シイラ	175,617	56,459	58,622
サワラ	252,442	86,855	224,016
マダイ	1,523	1,911	2,375
スズキ	1,613	1,916	1,613
カマス	16,930	15,123	11,255
アオリイカ	9,151	6,611	7,253
ケンサキイカ	3,865	29,219	7,017
合 計	538,524	543,754	610,646

底 び き 網 の つ づ き			
魚 種	2012年	2011年	02-11平均
ケンサキイカ	2,419	9,253	2,074
タコ類	7,805	5,200	7,306
アカエビ	46,541	69,157	57,835
その他エビ	7,569	5,846	4,940
合 計	343,664	319,491	308,868

釣 り, 延 縄, さ し 網, そ の 他			
魚 種	2012年	2011年	02-11平均
アジ類	662	991	895
ブリ類	128	602	907
マダイ	2,659	2,642	3,560
キダイ	10,353	7,512	6,122
アマダイ	4,035	6,247	5,425
スズキ	314	129	313
ヒラメ	446	349	604
その他カレイ	1,069	488	516
アナゴ	568	438	317
メバル類	1,605	4,585	3,280
キス類	480	142	400
スルメイカ	88	2,770	4,482
アオリイカ	2,161	2,169	2,337
ケンサキイカ	1,099	14,678	9,650
ソデイカ	27,964	170	14,588
タコ類	3,509	2,935	5,103
その他エビ	190	373	544
合 計	85,867	75,449	90,214

底 び き 網			
魚 種	2012年	2011年	02-11平均
マダイ	1,497	2,028	1,986
チダイ	635	692	835
キダイ	10,478	11,095	12,252
アマダイ	1,250	762	1,598
アカガレイ	93,884	66,652	68,718
その他カレイ	34,877	35,971	58,342
アナゴ	4,319	4,152	3,910
ハタハタ	1,982	1,718	3,117
メバル類	1,659	1,079	971
ニギス	14,577	12,407	12,985

総 計	2012年	2011年	02-11平均
	968,056	938,695	1,009,727

※ ( ) は銘柄別の漁獲量  
 ※その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類  
 ※その他エビはアカエビ以外のエビ類

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況……石川県：9月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：9月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月中旬～10月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬の1統あたりの漁獲量。)

- 石川県……定置網……マアジ0.9t、サワラ2.7t、ブリ（フクラギ・コゾクラ銘柄）2.9t、シイラ4.1t、カマス1.8t。
- 京都府……定置網……サワラ14.3t、ブリ（アオコ銘柄）1.0t、カタクチイワシ1.0t。
- 兵庫県……定置網……アジ類183kg、ツバス59kg、カマス70kg。
- 鳥取県……まき網……マアジ6.4t、マイワシ6.3t、マサバ9.1t、ブリ類9.2t、カタクチイワシ27.5t。  
(宮田克士)

## 「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。水産試験場で実施したトロール網調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

### 漁獲動向：

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は増加傾向にあり、近年は500t前後で推移しています。このことは、漁業者が実践しているズワイガニの資源管理の成果と考えています(図1)。

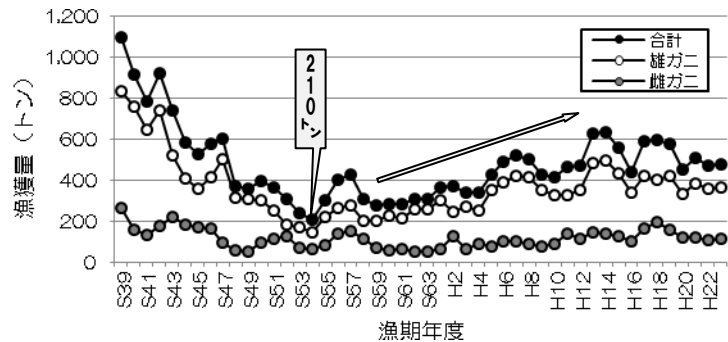


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

### 卓越年級群（他の年に比べて加入量が特に多い年齢）：

H21年の調査で確認されていた卓越年級群は、雄の一部は水ガニとして、雌の大半はクロコ（経産）として今漁期の漁獲対象となります。

雄は水ガニに加え昨漁期の取り残しも比較的多いため、前年を上回る漁獲が期待されます。雌は前年に引き続き卓越年級群が加入することにより前年並みの漁獲が期待されます。

今年の調査でも、雄雌ともに甲幅45mm前後に卓越年級群が確認され、この群は2～3年後に漁獲対象となる見込みです(図2)。

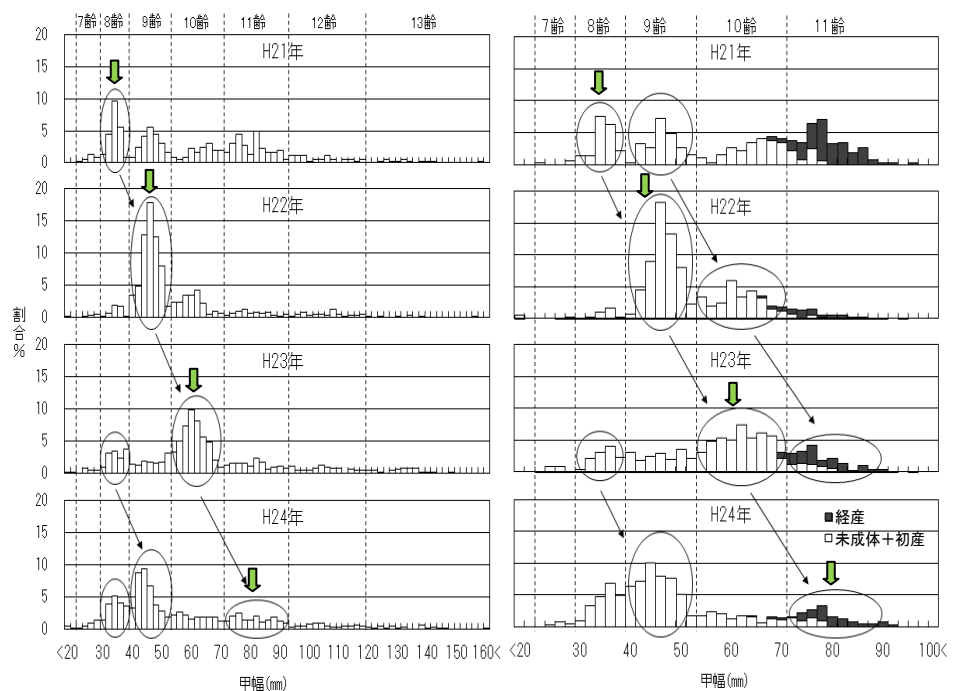


図2 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (左：オス、右：メス)

### 推定資源量：

今漁期に漁獲対象となるズワイガニの資源量を推定したところ、雄ガニは昨年(1,622t)をやや上回る1,782t、雌ガニは昨年(422t)と同程度の446tと算出されました。

(児玉晃治)

## 梅果汁を添加したトラフグ養殖試験について

水産試験場では、養殖トラフグに寄生するハダムシ等の感染を防ぎ、安全で安心な養殖を目指すために、平成23年度より飼料に梅果汁を添加したトラフグ養殖試験を行っています。

試験は、魚体重1kgあたり1mlの梅果汁を配合飼料に添加して給餌する区（以下、梅試験区）と通常の配合飼料を給餌する区（以下、コントロール区）の2つの試験区を設定し、成長とハダムシ・エラムシの寄生数の比較を行っています。

### 成長への影響：

図1に平成23年度から行っている養殖試験（小浜・敦賀）の結果を示しました。両地区とも梅試験区、コントロール区で体長、体重に大きな差は見られず、梅果汁添加による成長への影響は見られませんでした。24年度から試験を行っている、高浜・若狭の両地区についても調査中ですが、現在のところ同様の傾向が見られています。

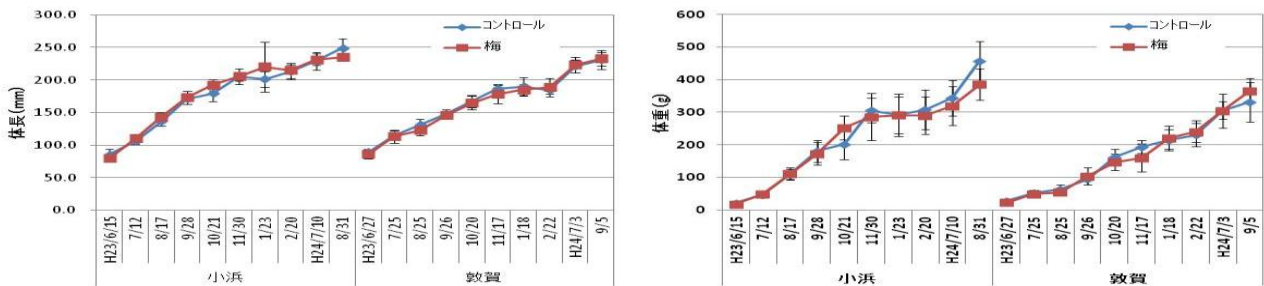


図1. 小浜・敦賀地区 梅果汁添加試験 体長（左）と体重（右）比較

### ハダムシとエラムシの寄生数：

試験中の寄生数の変化を小浜・敦賀地区は図2、高浜・若狭地区は図3に示しました。

ハダムシについては、敦賀地区で23年9月から11月にかけてのみ発生し、11月を除いて梅試験区の方が寄生数が少ない傾向でした。高浜・若狭町の両地区については24年9月から発生が見られており、今後も調査を続けます。

また、エラムシについては、小浜・敦賀の両地区とも全般的に梅試験区の寄生数が少ない傾向がみられました。高浜・若狭の両地区については、7月から発生が確認されており、調査を継続中（田中直幸）

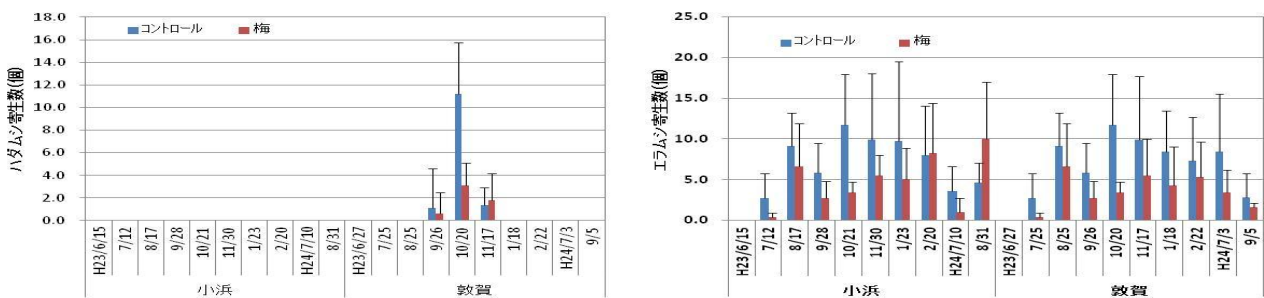


図2. 小浜、敦賀地区 梅果汁添加試験寄生虫数(左:ハダムシ、右:エラムシ)

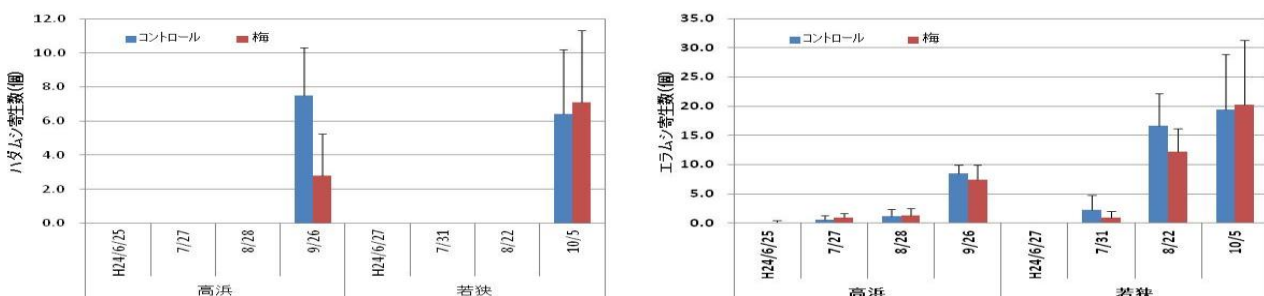


図3. 高浜、若狭町地区 梅果汁添加試験寄生虫数(左:ハダムシ、右:エラムシ)